



環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



第3号 平成22年3月

発行／環境公共推進会議事務局

〒030-8570 青森市長島 1-1-1

青森県農林水産部農村整備課内

TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

～山・川・海をつなぐ きれいな水づくり フォーラムを開催～

1月28日に青森市のラ・プラス青い森で、農林水産業の関係者や一般の方々170名が参加して“山・川・海をつなぐ「きれいな水づくり」フォーラム”が開催されました。

フォーラムでは、三村知事の挨拶の後、安全・安心な農林水産物を生産するための基礎となる「きれいな水」を守るための先進的な活動に取り組んでいる「小川原湖自然楽校」など計6団体が表彰されました。また、優良事例の発表や弘前大学の工藤明教授をコーディネーターに「きれいな水を守るために、私たちにできること」についてパネルディスカッションが行われ、山・川・海をつなぐ水循環システムを再生・保全を図る「環境公共」の取組などについて、広く意見が交わされました。



パネルディスカッションの様子

～環境公共コンシェルジュ認定証授与式を開催～

2月25日に青森市のラ・プラス青い森で、環境公共コンシェルジュ認定証授与式が行われました。環境公共コンシェルジュは、「環境公共」を推進する地域のリーダーとして、「環境公共」の活動に対して、指導や助言を行います。

今回、認定された18名の環境公共コンシェルジュは、昨年9月から計4回にわたって、「環境公共」の基本的な考え方や実施手法、実践事例などについて研修を行ったほか、県内で整備されている農業、林業、水産業の各施設等の視察や県内外で開催された環境の保全・再生についての研修会などに参加し、必要な知識や技術を習得してきました。

認定証授与式では、県農林水産部安部次長が環境公共コンシェルジュ一人一人に認定証を手渡し、「地域のリーダーとして、その行動力、調整力を遺憾なく発揮され、「環境公共」推進の牽引役になっていただきたい」と激励しました。その後、認定された環境公共コンシェルジュの代表から、「環境保護に以前から関心を持っていた。それぞれの地域の取組を支援していきたい」との決意が述べられました。



環境公共コンシェルジュの皆さん

■特集 ～青森県における「環境公共」の取組事例②～

前号に引き続き、県内における「環境公共」の取組を紹介します。

魚類が生息している環境を保全する取組事例（青森市惣四郎堰地区）

青森市を流れる横内川は、「日本一おいしい水」に認定された青森市の上水道の水源となっています。惣四郎堰は、その横内川から取水した水を63ヘクタールの水田に運ぶ延長約8,300メートルの水路です。

惣四郎堰の歴史は古く、約220年前に地元の農家の方々によって開削され、今日まで受け継がれてきています。しかし、惣四郎堰が土の水路であったため、たびたび漏水や土砂崩れなどが発生し、営農に支障をきたしていました。

また、本水路は、イワナなどの魚類が生息する環境が守られており、農家の方々は、日本一おいしい水で作った米を安全で安心な農産物としてアピールしたいとの強い思いがありました。

このため、惣四郎堰の改修に当たっては、漏水や土砂崩れを防止しながら、魚類などが生息する環境を保全する水路とすることとしました。

具体的には、谷側は漏水を防止するためのコンクリート積みブロック、山側は石材を用いた工法により土砂崩れを防止する改修を行いました。また、魚類などの隠れ場所となるように水路の底に石を配置することや間伐材などを用いてワンドと呼ばれる魚類が休息できる場所を設けているほか、魚類が木陰で休息できるように水路の両側の森林を残しています。

水路の改修後に調査を実施したところ、イワナなどの魚類の生息が確認されています。



改修前の水路



改修後の水路
(水路の底に石を配置)



間伐材などを用いたワンド

環境の保全・再生の事例紹介

ー岩木川左岸地区かんがい排水事業ー(つがる市)

排水路の改修に当たって、環境の保全に取り組んだ事例を紹介します。

この排水路は、コンクリート矢板を用いて造成した水路で、水路の底が土となっていたため、下流のポンプ場が稼働することにより、底の土砂が流され、矢板の転倒や法面の崩壊が生じていました。

このため、改修に当たっては、土砂の流出を防止し、魚類が棲める環境を保全するため、写真上のように水路の底に石を敷き詰めることとしました。改修後の調査では、ドジョウやモツゴなどの魚類やタニシなどの生息が確認されています。

